

狩猟免許更新講習 資料集④

猟具の取扱い

環境省自然環境局
野生生物課 鳥獣保護管理室

更新講習科目

(ア) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟に関する法令

- (i) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、同法施行令、同法施行規則及び同法に基づく環境省告示並びに都道府県の告示及び同法に関する都道府県の条例、規則、告示
- (ii) 絶滅のおそれのある野生動植物種の種の保存に関する法律、自然公園法、自然環境保全法、文化財保護法、銃砲刀剣類所持等取締法及び火薬類取締法、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律中の鳥獣又は狩猟に関する事項

(イ) 鳥獣の判別

狩猟鳥獣及び狩猟鳥獣と誤認されやすい鳥獣の形態、生態、識別の概要

(ウ) 猟具の取扱い

- (i) 網及びわなの種類、構造及び装置方法の概要並びに使用上の注意事項
- (ii) 使用禁止の猟具と法定猟具の区別
- (iii) 銃器の種類、構造及び威力の概要
- (iv) 銃器の操作方法並びに保管、携帯及び運搬の要領
- (v) 事故防止の注意事項

(エ) 鳥獣の保護及び管理に関する知識

- (i) 鳥獣の保護及び管理（個体群管理、被害防除対策、生息環境管理）の概要
- (ii) 錯誤捕獲の防止
- (iii) 鉛弾による汚染の防止（非鉛弾の取扱い上の留意点）
- (iv) 人獣共通感染症の予防
- (v) 外来生物対策

鳥獣捕獲等事業における捕獲手法

1. 捕獲手法への全般的な理解の必要性
2. 銃による捕獲
3. わなによる捕獲

捕獲手法への全般的な理解の必要性

- 対象鳥獣の種類や環境条件に応じた手法を選択できる。
 - ・ 単一の手法では捕獲効率が下がる場合。
 - ・ 特定の手法が使えない場所や条件での捕獲。
- 経験の異なる従事者の技術や安全基準を理解し合う。
 - ・ 安全で円滑な業務が行なえる。
- 捕獲の目的に応じた手法を選択できる。

銃による捕獲の特徴

○利点

- ・ 即時に殺傷して捕獲できる。
- ・ 能動的に移動して捕獲できる。
- ・ 誘引や馴化が必要ない方法もある。
- ・ 対象鳥獣を目視して選択的に捕獲できる。

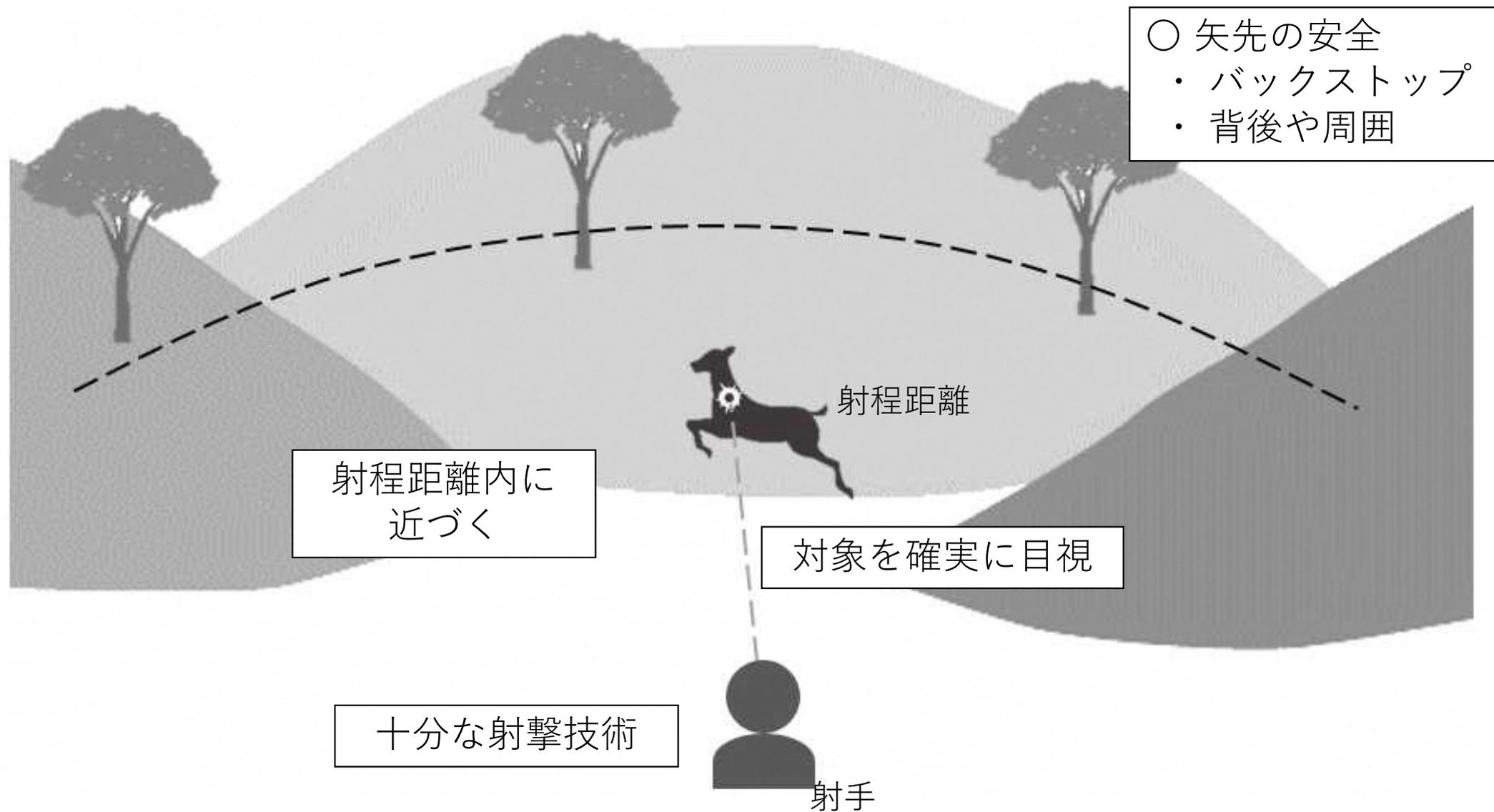
○条件

- ・ 射程内に対象を捉える技術や射撃技術が必要。
- ・ 高度な安全管理が求められる。

銃による捕獲が可能になる条件（1）

- 対象鳥獣を確実に目視できる。
- 銃の射程内に近づく（あるいは誘引する）。
- 矢先の安全が確保されている。
- 射撃技術がある。

銃による捕獲が可能になる条件（2）



○ これらの要件が全てそろって、銃による捕獲が可能。

銃による捕獲手法の類型

- 待ち伏せて捕獲する。
- 探索・追跡して捕獲する。
- 待ち伏せと探索・追跡を組み合わせて捕獲する。
- 射手が、定位置で待機するのか、移動するのかで求められる技能や安全管理の注意点が異なる。

待ち伏せて捕獲する方法

○ 特徴

- ・ 対象鳥獣が近づくのを待ち伏せて射撃。
例：待ち伏せ猟・誘引狙撃・コール猟 など
- ・ 従事者の安全管理がしやすい。
(あらかじめ発射位置と射撃範囲を限定できる。)
- ・ 誘引期間や待機時間は様々な条件に左右される。
- ・ 対象鳥獣や引付方法により射撃距離や射法が変わる。
- ・ 方針に合った銃器や弾、照準器を選定。

○ 必要な技能と作業

- ・ 痕跡等の状況判断による出没地点の見立て。
- ・ 誘引できる場所や誘引方法の見立て。
- ・ 適切な射撃地点の判断や射撃範囲の想定。

探索や追跡をして捕獲する方法（1）

○ 特徴

- ・ 射手が対象鳥獣に近づいて射撃する。
例：流し撃ち・忍び猟・跡追い猟 など
- ・ 追跡に猟犬を使用する場合がある。
- ・ 移動しながらの射撃にはより高度な安全管理が必要。



探索や追跡をして捕獲する方法（2）

○ 必要な技能と作業

- ・ 対象鳥獣と遭遇できる知見や技術。
- ・ 相手に気づかれないように行動する技術や感覚の鋭さが必要。
- ・ 確率の高い場所や時期の見立てが必要。
- ・ 山中を歩きながらの銃器の安全な操作。
- ・ 移動しながらの状況把握と、安全な射撃位置・方向の判断。
- ・ すばやく対象に狙いをつける技術。

探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる捕獲する方法（1）

○ 特徴

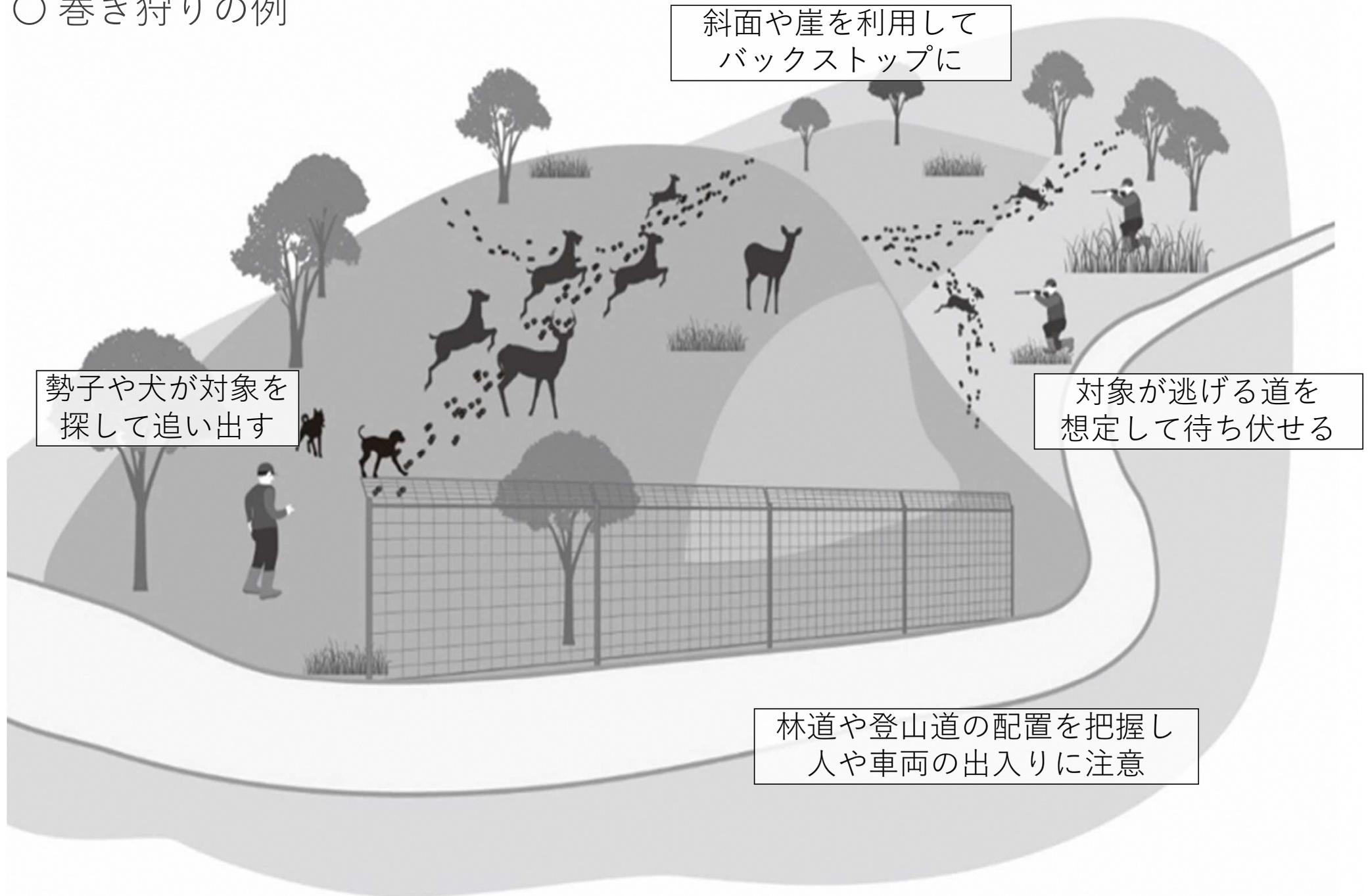
- ・ 追跡と待ち伏せを役割分担し共同で捕獲を実施。
- ・ 勢子（おもに追跡の役割）。
山中を歩きまわり対象鳥獣を待ち手の前に追い出す。
追跡をして対象鳥獣を仕留める場合もある。

○ 待ち手（待ち伏せの役割）

- ・ 対象となる地域を複数人で包囲。
- ・ 対象鳥獣が追い出されそうな場所で待ち伏せ仕留める。

探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる捕獲する方法（2）

○ 巻き狩りの例



探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる方法（3）

○ 必要な技能と作業

「探索・追跡」と「待ち伏せ」で必要なことに加えて、

- ・ チーム全体の方針と計画。
 - － 従事者の人数・能力
 - － 猟犬の使用有無や犬種
 - － 勢子や待ち手の配置や動き 等
- ・ チームの方針と計画を従事者全員が理解。
- ・ 指揮者からの指示と作業中のコミュニケーション。

銃による捕獲に必要な技能と作業

○ 銃による捕獲に共通に必要な項目

- ・ 捕獲方法に合わせた機器の選択と手入れ・調整。
- ・ 銃器の安全で正確な操作。
- ・ 射撃可能な範囲や条件の想定。
- ・ 発砲の安全を判断する状況把握。
- ・ 正確な射撃技術。

○ 猟犬を用いる場合に必要項目

- ・ 登録や予防接種等の実施。
- ・ 日ごろからの訓練。
- ・ 人や飼育動物に危害を加えない。
- ・ 捕獲にふさわしい犬種や個体の選択。
- ・ 現場では常に管理の下で行動させる。

わなによる捕獲の特徴

○ 利点

- ・ 一人で多くのわなを管理できる。
- ・ 夜間も捕獲できる。
- ・ 銃器より安全管理や技術獲得が容易。
- ・ 技術がない人でも協力できる作業が多い。

○ 条件

- ・ 資機材の設置や毎日の見回りが必要。
- ・ 捕獲に至るまで日数がかかる場合も多い。
- ・ 対象鳥獣以外が錯誤捕獲される危険性がある。

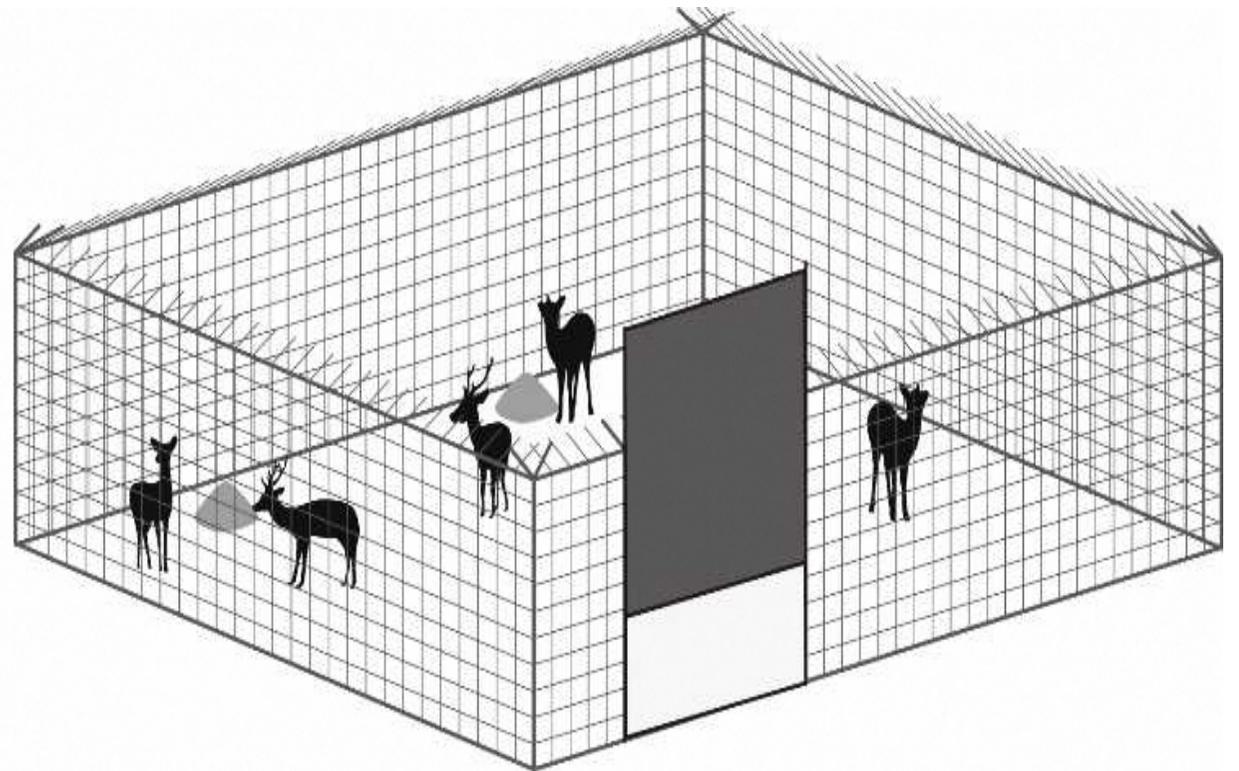
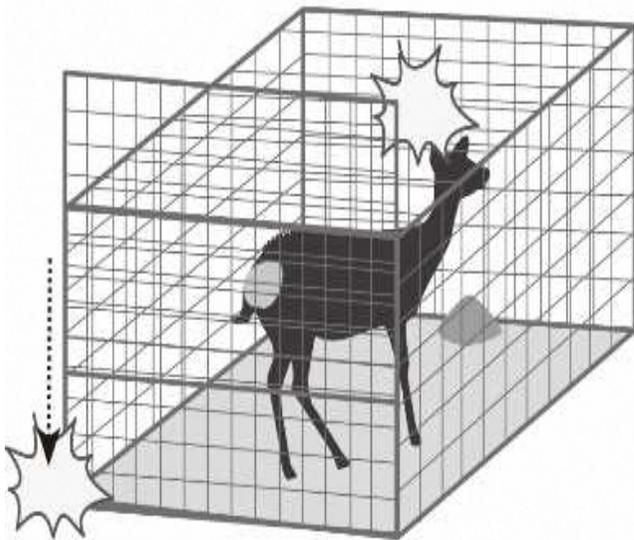
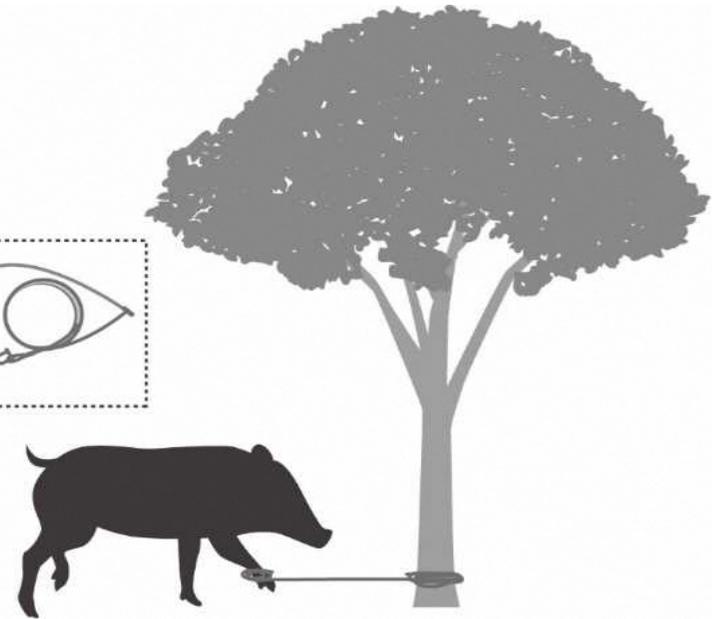
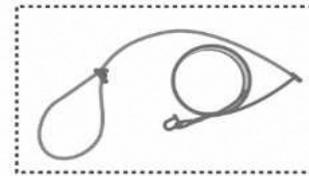
わなによる捕獲のポイント

- 対象鳥獣が出没する場所を選ぶ。
- 安全が確保できる場所に設置する。
- 特に捕獲後の状況を想定した留意が必要。
- 警戒心を解いてわなに誘導する。
- 確実に拘束する。
- 適切に殺処分を行う。

わなによる捕獲の種類

○ 餌を使って誘引する方法。

○ 気づかれずに捕獲する方法。



餌を使って誘引する方法（箱わな・罠いわな）

- 対象鳥獣を誘引し出入り口を閉じて捕獲。
- くくりわなと比較すると捕獲後の安全性は高い。
 - ・ わなの仕様や強度が十分である場合。
- 毎日の見回りや餌やりを確実に実施。
 - ・ 事故の防止。
 - ・ 捕獲効率の向上。
 - ・ 錯誤捕獲の防止。

箱わなによる捕獲の流れ

ステップ1

場所を決める



ステップ2

餌付けで誘引



ステップ3

餌付けを続けて警戒心を解く



ステップ4

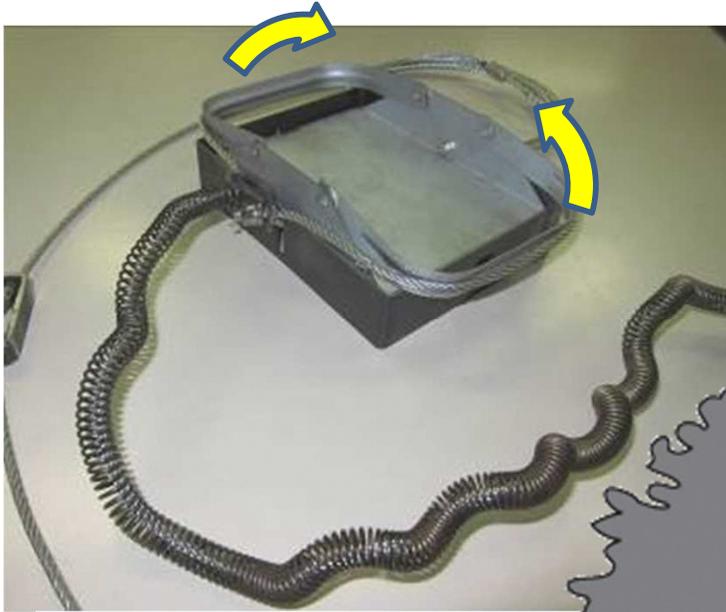
捕獲する



気づかれずに捕獲する方法（くくりわな）

- 対象鳥獣の体の一部をくくって拘束。
- 事故や逃亡の危険性が比較的高い。
 - ・ 対象動物に合った強度のある資機材の使用と設置。
- 気づかれないようにわなを設置する技術が必要。
- 対象動物が確実に足を置く場所の見極めが必要。
- 毎日の見回りを確実に実施。
 - ・ 事故の防止。
 - ・ 捕獲効率の向上。

くくりわなによる捕獲の流れ



獲物が踏み板を踏むと、バネの力でワイヤーの輪がしまり、足がくくられる。

ワナの上部は土や落ち葉で覆ってカモフラージュする。

